

★2面は「2つの助成金」と「ワークショップ」「セミナー」情報

第35号

2月16日(日)「まちの駅やながわ」の「営業再開」に人の波！ 「市とNPOと地元事業者の協働事業再開」で「賑わい復活へ」！

昨年10月の19号台風で被災した梁川町の「まちの駅やながわ」が、2月16日の日曜日約4カ月ぶりに営業を再開しました。この日は朝から雨模様だったにもかかわらず、開店の午前10時前には近隣住民約50人ほどが並び「まちの駅」再スタートを祝いました。須田伊達市長も応援に駆け付けた当日の現場写真も交えてレポートします。

「吊るし雛」を飾り付けた店内には野菜や果物、加工品が並び、開店間もなく、レジにも行列！

・「まちの駅やながわ」の入り口では来客に甘酒が振舞われました。応援に駆け付けた須田伊達市長も市民ひとり一人に甘酒の入ったカップを手渡していました。駅の中には「吊るし雛」が飾られて客を迎え「営業再開」を待ちかねた近隣住民が開店前から50人ほどが並んでいたということです。取材で訪ねた10時半過ぎには、店内は買い物客で早くもごった返しており、レジカウンターには長蛇の列が出来ていました。農産物や加工品などの「特産品コーナー」では生花やイチゴなどがすぐに売り切れてしまい、出店していた農家が、何度も追加納品に走り回っていました。「まちの駅やながわの、賑わい復活を待ち焦がれていた住民がたくさんいる」ことを強く印象付ける光景でした。

「市+NPO+地元事業者」の「協働事業再開」で「19号台風の被災を乗り越え復興へ」の気運！

・「まちの駅やながわ」は2018年4月、市民交流と地域の活性化を目指し、管理運営を「NPO法人伊達氏のふるさと梁川会」、「お食事処やながわ」を「伊達鶏」で知られる地元企業「伊達物産」が担う「市+NPO+地元事業者の協働事業」としてスタートしました。去年2月には「お食事処やながわ」の「肉ゴロッとおにぎり」が全国規模の「お弁当・お惣菜大賞2019おにぎり部門」で「最優秀賞」を獲得。人気も売り上げも急上昇していたのに、台風19号で1.4メートルの床上浸水を被り休業を余儀なくされていたのです。NPO法人理事長であり駅長でもある八巻さんは「復興は始まったばかり。駅の賑わいが少しでも梁川の復興に繋がってほしい」と語っています。朗報もあります。「お弁当・お惣菜大賞2020」で「伊達物産」が2年連続しかも「最優秀賞(惣菜部門)」と「優秀賞(丼部門)」を獲得したことです。これがきっと梁川の賑わいと復興を力強く後押ししてくれることでしょう。



■甘酒の振る舞いとエコバックプレゼントで営業再開を果たした「まちの駅やながわ」



■吊るし雛の下、季節の野菜や果物に大喜びの買い物客とそれを見守る須田伊達市長(左端)



■開店間もなくレジの前にも人の列。その上にはお弁当・お惣菜大賞の2年連続受賞の報告

「2つの助成金」が「3月31日募集締め切り」で現在応募受付中！ 3月に地元NPO法人が「ワークショップ」「フォーラム」連続開催！

子どもを支援するドコモ「市民活動団体助成事業」地域福祉を支援するNHK「わかば基金」が受付中

・「ドコモ市民活動団体助成事業」は「NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド（MCF）」の「子ども支援のための助成事業」。分野は「①子どもの健全な育成を支援する活動＝上限1団体70万円」と「②経済的困難を抱える子どもを支援する活動＝上限1団体100万円」に分けて募集中。詳細はHPで確認できます。<https://www.mcfund.or.jp/>

・「わかば基金」は「社会福祉法人NHK厚生文化事業団」の「地域福祉を支援する基金事業」。部門は「①支援金部門＝この支援金で活動を広げたい団体＝上限100万円」「②リサイクルパソコン部門＝パソコンを増やして活動充実を図れる団体＝上限3台」「③災害復興支援部門＝激甚災害指定を受けた被災地で復旧・復興に取り組む団体＝上限100万円」の3つ。詳細はHPで確認できます。<https://www.npwo.or.jp>



■ドコモの「助成対象団体」にはいくつかの条件があります。その中に「活動状況についてHPやSNSで情報発信している団体」とありますからまずHPでの確認がオススメです。



■NHK「わかば基金」への応募は「第32回」の「申請書」による「郵送」でしか受け付けませんから、これもまずHPで確認して「申請書」のダウンロードがオススメです。

「りょうぜん里山がっこう」が「人づくりワークショップ」と「未来創造フォーラム」を3/7、3/8連続開催!

・農村と都市との交流を通して、農業の活性化と農のある暮らしの充実に取り組んでいる「NPO法人りょうぜん里山がっこう」（理事長・高野金助さん）が3月に2つのイベントを企画、参加者を募集しています。1つは3月7日（土）開催の「人づくりワークショップ」、もう1つは3月8日（日）開催の「未来創造フォーラム」。7日は世界の各国、各分野で取り組まれている「SDGs」をテーマに「ワークショップ」を通して「持続可能な農村交流を担う人づくり」に、8日は「2つの事例報告」と「パネルディスカッション」を通して「地域づくりと自己実現」に、それぞれ参加者と主催者が一緒にチャレンジする企画です。会場はどちらも「りょうぜん里山がっこう」（霊山町大石細倉17 電話024-587-1032）。参加希望の方は直接電話で「NPO法人りょうぜん里山がっこう」までお申し込みください。



■SDGs（エス・ディー・ジーズ）は「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略。2030年達成を目標に、17の大目標と169のターゲットで構成されています。



■「人づくりワークショップ」も「未来創造フォーラム」も「参加費500円」が必要です。ワークショップは昼食代、フォーラムは資料代となっています。

2020年度公益信託うつくしま基金の審査結果が発表され、伊達市から4団体が選ばれました！

・去年10月県北地区説明会が伊達市で開催された「2020年度（第18回）公益信託うつくしま基金」の審査結果が2月12日発表されました。「うつくしま基金」のホームページで確認したところ、伊達市からは「スタートアップ支援コース（上限30万円）」で1団体、「実践支援コース（上限50万円）」で3団体、合計4団体が選ばれていました。説明会を共催させていただき、ささやかながら申請書作成も一部サポートさせていただいた支援センターとしてもうれしい結果でした。



伊達市市民活動支援センター

電話番号：024-583-2800 FAX：024-583-2820

○開館：毎週・月～土曜（日曜休館）

午前9時～午後6時

伊達ふれあいセンター3階まで